2022年度春期

スーパーバイザー士筆記試験

2022年８月３日（水）実施

13:30～14:30

３．財務・問題解決

（該当講義　講義③．⑥．⑦）

答案作成上の注意

- ◇ 解答用紙の所定の欄に氏名を記入してください。
- ◇ 係りの合図があるまではこの表紙をあけないでください。
- ◇ 解答は解答用紙に記入してください。
- ◇ 試験時間は６０分です。
- ◇ 試験開始後３０分で退出できます。
- ◇ 退出される際には、出入口にいる事務局員に解答用紙を提出してください。
- ◇ 再入場はできません。

一般社団法人
日本フランチャイズチェーン協会

財務諸表の知識(税務含む)

【問題１】配点３２点（各２点）

次の①～⑩の取引から解答用紙の貸借対照表と損益計算書を作成しなさい。特に記述のない場合には、それぞれの取引は現金で行ったこととする。なお、解答にあたっては数字の単位に十分気をつけること。

① 当社は 01 年 4 月 1 日に資本金 3,000,000 円で設立した。決算日は 3 月 31 日。今期の事業年度は 01 年 4 月 1 日～02 年 3 月 31 日（以下、「今期」という）
② 今期の売上高は 72,000,000 円であり、このうち 3,000,000 円は未回収である。
③ 今期の仕入高は 42,000,000 円であり、このうち 2,000,000 円は未払いである。
④ 02 年 3 月 31 日に商品の棚卸しを行った結果、仕入金額ベースで 1,800,000 円分あった。
⑤ 今期の役員・従業員に対する給与は総額で 12,000,000 円であった。
⑥ 01 年 4 月 1 日に金融機関から 20,000,000 円借り入れた。返済期間は 7 年。今期中に返済した元本の額は 3,000,000 円であり、今期はこの元本返済の他に支払利息 400,000 円を支払った。
⑦ 固定資産（器具備品）の購入価額は 22,000,000 円であり、01 年 4 月 1 日から事業用として使用している。
⑧ 上記⑦器具備品の耐用年数は 10 年（定率法による償却率は 0.20）。定率法により今期の減価償却費を計算すること。
⑨ 今期に支払った家賃は 6,000,000 円。
⑩ その他今期の諸経費として 7,200,000 円支払った。

【問題２】（配点８点）

上記問題１⑦で購入した固定資産（器具備品）については、01 年 4 月 1 日～02 年 3 月 31 日の事業年度において 1 年分の減価償却費の計上を行った。この資産を 03 年 3 月 31 日まで引き続き保有していた場合における 02 年 4 月 1 日～03 年 3 月 31 日の事業年度における 1 年間の減価償却費を求めなさい。償却計算を行う場合の償却方法及び償却率に変更はなく、計算結果に 1 円未満の端数が生じた場合には、その都度切り捨てることとする。

貸借対照表 02年3月31日現在

科　目	金額（円）	科　目	金額（円）
現　預　金	（　　）	（　　）	（　　）
（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
商　品	1,800,000		
器　具　備　品	22,000,000		
減　価　償　却　累　計額△	4,400,000	資　本　金	3,000,000
器具備品差引残高	（　　）	経　常　利　益	（　　）
資産の部計	（　　）	負債・純資産の部計	23,800,000

損益計算書(01年4月1日～02年3月31日)

	金額（単位：円）
売　上　高	72,000,000
仕　入　高	42,000,000
期　末　商　品　棚　卸　高	1,800,000
売　上　原　価	（　　）
（　　）利　益	（　　）
販売費及び一般管理費	
給　与	12,000,000
減　価　償　却　費	4,400,000
地　代　家　賃	6,000,000
諸　経　費	7,200,000
販売費及び一般管理費計	29,600,000
営　業　利　益	2,200,000
（　　）	（　　）
経　常　利　益	（　　）

計数管理の知識

【問題３】配点 18 点（各 2 点）

次の文章を読み、正しいものに〇、誤りのあるものに×を解答欄に記入してください。

① 総資産経常利益率は運用している固定資産でどの位の経常利益を生み出したかを示す。

② 売上高営業利益率の向上は、売上高対販管費率の低減により実現できる。

③ 総資産回転率の向上のためには、総資産を増やす必要がある。

④ 損益分岐点比率が 100%を超えた結果、利益が確保できたと判断できる。

⑤ 損益分岐点の引き下げは、変動費率の引き上げと固定費の引き下げにより実現できる。

⑥ 安全余裕率は、損益分岐点に達するまでの余裕の程度を表す。

⑦ 流動比率が 100%を下回ったため、短期的な支払能力は高まった。

⑧ 固定長期適合率は 100%以下が最低必要水準である。

⑨ 自己資本比率は企業の財政基盤の健全性をチェックでき 30%は欲しい指標といわれる。

【問題４】配点 12 点（各 4 点）

下表はフランチャイズ加盟のカフェ店の月次損益計算書です。コロナ禍の収束基調の中、売上増を見込んでスタッフ数を増員しました。次の文章の空欄に適切な記号（大文字のアルファベット）を語群より選択し、解答欄に記入して下さい。

項目		金額（千円）	構成比
売上高		3,444	100.0%
売上原価		1,085	31.5%
売上総利益		2,359	68.5%
販売費・一般管理費		2,071	60.1%
販管費の内訳	人件費	1,176	34.1%
	水道光熱費	182	5.3%
	販売促進費	47	1.4%
	減価償却費	138	4.0%
	地代家賃	324	9.4%
	その他経費	102	3.0%
	ロイヤリティ	102	3.0%
営業利益		288	8.4%

当店の損益分岐点売上高は、売上原価を変動費、販売費・一般管理費を固定費とすれば（　①　）になる。したがって、損益分岐点比率は（　②　）である。固定費及び変動費率に変化がない前提で、営業利益 500 千円を確保するためには目標売上高は（　③　）、営業利益 700 千円では目標売上高は（　④　）が必要になる。

【語　群】

A.3,024 千円　B. 3,346 千円　C.3,754 千円　D.4,045 千円　E.4,279 千円　F.4,610 千円

G.87.8%　H.97.1%　I.109.0%

問題解決手法

【問題 5】配点 24 点（各 2 点）

以下の問いに記号で答えなさい。

１．問題にはいくつかの型がありますが、以下の記述で正しいものを選びなさい。

ア）探索型問題とは、現状をもっと良くしたいというところから生じる問題である。

イ）探索型問題は、原因志向型問題とも呼ばれている。

ウ）設定型問題とは、現在設定している目標との差異が生じた場合の問題を指す。

エ）未達問題は、発生型問題のうちのひとつのパターンである。

オ）回避問題は、発生型問題のうちのひとつのパターンである。

２．ＭＥＣＥになっているのはどれか？

ア）飲み物は、清涼飲料と炭酸飲料に分解できる。

イ）飲み物は、ノンアルコール飲料とアルコール飲料に分解できる。

ウ）飲み物は、お酒と炭酸飲料に分解できる。

３．定量的に分解する場合、間違っている式はどれか？

ア）売上高＝客数×客単価

イ）営業利益＝売上総利益－固定費

ウ）売上総利益＝売上高－変動費

４．問題を絞り込む方法について、以下の記述で正しいものはどれか？

ア）時系列や他店との比較は、絞り込む際の視点として有効である。

イ）自店の問題なので、競合や他店との比較はあまり有効ではない。

ウ）ＫＰＩは、大企業には有効だが、中小のチェーンにはあまり役立たない。

５．原因究明について以下の記述で正しいものはどれか？

ア）原因は問題を裏返すことで容易に究明できる。

イ）3Ｃ分析は、原因究明のフレームワークとして有効である。

ウ）原因を絞り込む際には、以前と比較して変化の大きい要素を特定することがポイントとなる。

６．正しい因果関係について、以下の記述で間違っているものはどれか？

ア）売上が低下したので賞与が削減された。

イ）業務改善を行ったので一人当たりの生産性が改善した。

ウ）雑誌で自店のことが取り上げられたので客数が増加した。

７．ＳＶが行う問題解決に関する以下の記述について、正しいものはどれか？

ア）SVは、本部の理念や方針を正しく理解していなければならない

イ）SVにとって、加盟店の売上を上げることが最も重要であり、利益までは考慮する必要はない

ウ）SVは担当店舗の問題を店長に代わって解決する存在である

エ）問題が発生したら、まずは「なぜ（Why）？」と問いかけるべきだ

オ）細かい原因分析を行ったうえで対策を考えるよりも、経験に基づいた対策をすぐに実施する方が大切だ

カ）SVは、常に正しい解決策を加盟店に提案しなければならない

キ）担当店舗の問題解決は、オーナーや店長と問題の共有を行うことが出発点である

ク）問題の細分化は、原因がわかりづらくなるため行うべきではない

ケ）SVは個人プレーなので、担当店舗の問題解決の実績を他のSVと共有する必要はない

コ）問題解決を正しく行うには、真の問題とはなにかを明確にすることが重要だ

【問題６】配点６点（各１点）

以下の文章の空欄に正しい言葉を語群から選びなさい。

問題解決を図るうえで、解決策をいくつか列挙した中から優先順位の高いものを選択する際には、リスク、（　①　）、実現可能性、（　②　）、（　③　）をそれぞれ評価して絞り込んでいきます。

原因究明に際して活用できるフレームワークとして「３Ｃ分析」があります。（　④　）、（　⑤　）、（　⑥　）の視点で環境変化を分析して原因究明に活用します。

（語群）

ア）結合改善	イ）成果度合い（効果度）	ウ）成果	エ）コストバランス
オ）アウトプット	カ）スピード	キ）Competitor	ク）Communication
ケ）Customer	コ）Counseling	サ）Consulting	シ）Company
ス）Control	セ）Coordination		